

「見て、信じた」

復活の主日・C年 (16. 3. 27)

最初に墓に来たマグダラのマリア

只今朗読いたしました、今日の福音ですが、最初に登場するのかマグダラのマリアであります。このマリアですが、ルカ福音書によれば、イエスに七つの悪霊を追い出してもらった、マグダラという町の出身ということです。また、マタイ福音書によれば、十字架上で処刑されたイエスのご遺体が岩に掘られた墓に葬られるのを、他の婦人たちと一緒にそばで見守っていた女性であります。そのマリアが、週の初めの日、しかもまだ暗いうちにつまり、光ではなくまだ闇の中にいるときに、墓に駆けつけ最初に見たのは、取り除けられていた大きな石なのであります。

そこで、彼女はとっさに、イエスのご遺体が何者かによって盗まれてしまったのであります。ですから、すぐに弟子の頭^{かしら}であるペトロの所へ急いで戻り、「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」と報告しました。そこで、ペトロともう一人の弟子も驚いてすぐに墓に行ったのです。「二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロよりも先に墓に着いた。身をかがめて中をのぞくと、亜麻布がおいてあった。しかし、彼は中には入らなかった。」と、その場の様子をくわしく描写しております。つまり、この弟子は、ペトロに先を譲ったことを強調しているのであります。

ですから、ペトロが最初に墓の中に入り、イエスのご遺体を包んでいた亜麻布が、そのままそこに置いてあるのを見たのであります。しかも、頭を包んでいた覆いは、別の所に丸めてあったのです。

そこで初めて、もう一人の弟子も、中に入りその同じ情景を見たのですが、なんとこの弟子の「見て、信じた」という体験こそ、まさにイエスの復活を信ずることが出来たことにほかなりません。

つまり、復活を信じるとは、墓に葬られていたイエスのご遺体が、全く新しい栄光に輝く体になられたという、驚くべき変化を受け入れることなのであります。教会は、伝統的

にこの復活の神秘を、「過越の神秘」と呼んでいます。なぜなら、イエスの生前の御体が、全く新しい復活の体に過ぎ越されたからにはほかなりません。一旦、亡くなられたイエスが、また、生き返って元の体にもどられたのではありません。全く、新しい次元に見事に移られたのであります。

目から、うろこのようなものが落ち

それでは、このイエスの復活を信じることが出来るなら、私たちの生き方がどのように変えられるのでしょうか。一つの実例を、ここで、紹介しましょう。

それは、初代教会で、まさに勢力的に活躍した代表的な使徒パウロの体験であります。彼は、復活のイエスに出会う前は、熱心なユダヤ教の指導者でした。ですから、ユダヤ教からみれば、異端者であるキリスト教徒を迫害することにその使命感を抱いていたのであります。初代教会の歴史をまとめた『使徒言行録』は、彼の回心の体験を、次のようにくわしく伝えております。

「さて、パウロは、なおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。・・・ところが、パウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。パウロは、地に倒れ、『パウロ、パウロ、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼び掛ける声を聞いた。『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。・・・』」（使徒 9.1-5）そこで、パウロは、地面に叩きつけられ、起き上がろうとしたとき、何も見ることはできませんでした。

とにかく、パウロは、教会と一心同体となられた、まぎれもない復活のイエスの声を聞いたのであります。そして、この決定的な回心の体験によって、彼の生き方が、根本的に変えられてしまうのであります。つまり、キリスト教徒の迫害者から、なんと、異邦人にイエス・キリストを宣べ伝える偉大な宣教者に変えられてしまったのであります。

ですから、パウロ自身のそのときの衝撃的な復活のイエスとの出会いが、どのように彼を変えたのか、次のように説明されております。

「すると、たちまち目から、<うろこ>のようなものが落ち、パウロはもとどおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気になった。」（同上 9.18-19）

つまり、復活のイエスとの出会いによって、パウロは全く新しい現実が見えるように生まれ変わったということではないでしょうか。過越である復活は、わたしたちを、根本的に変える力があるので、ものの見方、捉え方が全面的に変えられてしまうのではないのでしょうか。

後ろのものをわすれ、前のものに全身を向けつつ

ですから、同じパウロは、自分の復活体験をさらの次のように振り返っています。

「しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見ています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それら塵芥ちりあくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。・・・わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけではありません。何とかして捕えようと努めているのです。自分がキリストに捕えられているからです。・・・なすべきことは、ただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身をむけつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」(フィリピ 3. 7-14)

イエスの復活の恵みにあずかることができるなら、わたしたちの生き方が根本的に変えられるのではないのでしょうか。それこそ、すべてを前向きに受け止め、過去を振り切り、ひたすら将来に向かって突き進むという生き方の実践にほかなりません。ですから、例えば、今まで赦せなかった方を、全面的に赦し、全く新しい関係を築いて行けるように変えられるのであります。

すなわち、日々、キリストの復活にあずかることによって、新たな段階に過越ことが出来るという体験にほかなりません。

特に、今現に、困難と苦しみの最中にある方々に、この復活の恵みが豊かに注かれ、新たな出発ができるよう共に祈りましょう。